船橋市 指定管理者　医療法人社団輝生会

船橋市リハビリセンター だより

2017. 8
VOL.14

発行日 / 平成 29 年 8 月 1 日　●発行　船橋市リハビリセンター　●発行責任者　センター長　石原 茂樹
TEL（047）468-2001　FAX (047) 468-2059　URL　http://www.funabashi-reha.com/

夏の三番瀬　　引き潮の時

地域包括ケアシステムについて

地域包括ケア研究会報告書の紹介

センター長　石原　茂樹

地域包括ケアシステムは団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年にむけて整備することが検討されてきましたが、平成 24 年度施行の介護保険法の改正により、地域包括ケアシステムの推進を図る趣旨の条文が加わり、国および地方公共団体の責務として整備することになりました。今回は地域包括ケア研究会から公表された資料をもとに、「地域包括ケアシステムの構成要素と相互関係」を抜粋しながら紹介させていただきます。少しでも地域包括ケアシステムについての理解の参考になれば幸いです。

＜地域包括ケアシステムの定義＞

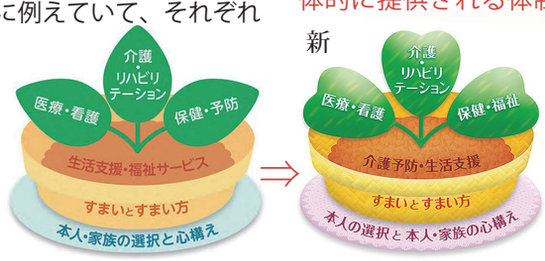
従来、「ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために医療や介護のみならず、福祉サービスも含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制」と定義されてきました。

＜地域包括ケアシステムの構成要素と相互関係＞

地域包括ケアシステムの対応すべき分野として、「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」の５つが特定されてきました。平成 24 年度の報告では、「住まいと住まい方」「福祉・生活支援」「介護・リハビリテーション」「医療・看護」「保健・予防」に変更されています。これらの構成要素の関係については、従来は並列関係で５要素が理解されてきましたが、地域包括ケア研究会の田中滋座長の図（植木鉢の図）では、「住まいと住まい方」を地域での生活の基盤に例えていて、それぞれの「住まい」で生活を構築するための「生活支援・福祉サービス」は植木鉢に満たされる養分を含んだ「土」と考えています。「生活（生活支援・福祉サービス）」という「土」がないところに、専門職の提供する「介護」や「医療」「予防」を植えても、それらは十分な力を発揮することなく、枯れてしまうことをしめしています。また、「５つの構成要素」にはありませんが、地域包括ケアシステムを支えてゆく重要な要素として「本人・家族の選択と心構え」が組み込まれてきています。

進化した「植木鉢」では、軽度者向けの「予防」は住民主体の活動の中で対応することになり、「介護予防と生活支援」とが一体のものとして再整理され、一方、健康管理などや福祉的課題への対応としての「福祉」が重要な要素として位置づけられました。さらに「本人の選択と心がまえ」は、「本人の選択」が最も重視されるべきとし、「本人の選択と本人・家族の心構え」と改められました。

報告書では、地域の中に多数の植木鉢が存在し、それぞれの住民のニーズにあった資源を適切に組み合わせ、一体的に提供される体制が担保されて初めて、「住み慣れた地域での生活を継続する」未来が可能になる。と報告されています。



三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング「＜地域包括ケア研究会＞地域包括ケアシステムと地域マネジメント」（地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業）、平成 27 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、2016 年

輝生会の基本理念			
	■「人間の尊厳」の保持	■「地域リハビリテーション」の推進	■「情報」の開示
	■「主体性・自己決定権」の尊重	■「ノーマライゼーション」の実現	

クリニック事業　特　集「歩こう会」

平成 29 年 4 月 4 日～平成 29 年 6 月 27 日

「第 2 回　歩こう会」は 4 月 4 日から 6 月 27 日の期間、毎週火曜日午後の企画で実施しました。
今回は 2 グループ、計 14 名の方に参加して頂きました。
今年は例年より開花が遅くまだ三分咲きでしたが、初回は薬円台公園で桜を楽しむことができました。他にもバラや紫陽花など季節の変化を堪能しました。時には電車を利用し、谷津バラ園まで足を伸ばしたことで、歩くことへの自信にも繋がりました。

第 1 回　薬園台公園

第 3 回・第 8 回　ゆるぎ地蔵 3000 m

第 4 回　アルビス前原方面 1200 m

第 6 回 八坂神社 3000 m

【歩こう会】
第 1 回　薬円台公園お花見
第 2 回　初回評価
第 3 回　前半：サンハイツコース (センター周囲) 1180m
　　後半：ゆるぎ地蔵　往復 2200m
第 4 回　前半：アルビス前原コース　往路 1200m
　　後半：京成リブレコース　往復 2900m
第 5 回　御嶽神社　後半：往復 2740m
第 6 回　八坂神社　後半：往復 3000m
第 7 回　中間評価
第 8 回　ゆるぎ地蔵　後半：往復 3000m
第 9 回　王子神社　後半：往復 3200m
第 10 回　前半：津田沼駅 (公共交通機関の利用)
　　後半：谷津バラ園
第 11 回　倶利迦羅不動尊　後半：往復 3600m
　　※雨天の中実施
第 12 回　前半：御嶽神社⇒田喜野井不動尊
　　後半：センター⇒田喜野井不動尊　3200m
第 13 回　最終評価　修了式
（距離は歩行距離）

第 5 回・12 回　御嶽神社 2740 m

また、当センターの周辺には御嶽（みたけ）神社や王子神社をはじめとする由緒ある建造物が多くあります。船橋には四国八十八カ所霊場巡りを模した「吉橋八十八カ所霊場」というものがあり、歩こう会では「ゆるぎ地蔵」、「倶利迦羅不動尊」、「田喜野井不動尊」を巡る会も行いました。
全 13 回の行程の中で、船橋の歴史を感じながら春の花咲く道を散策し、皆さんとの親睦を深め、歩こう会を楽しむことができました。　（文：泉水 泰良　PT）

バスで津田沼駅へ

前原駅から谷津へ

第 9 回 王子神社 3200 m

第 10 回 谷津バラ園

第 11 回 倶利迦羅不動尊　3600 m
雨天決行しました

第 12 回 田喜野井不動尊
3200 m

外来リハビリを希望される方は、船橋市リハビリセンター（047-468-2001）まで ご相談ください。

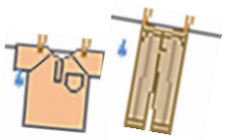
訪問看護事業

訪問看護師の一日

8：30　洗濯物干し

8：40　朝のミーティング

夜間当番の申し送り
情報収集
1 日の行動計画



9：00　行ってきまーす

2～3 件　訪問

自転車・車でそれぞれ出発

12：00　ただいま～

しっかりお昼ごはんを食べて
午後にそなえます

13：00　行ってきまーす

2～3 件　訪問
担当者会議出席など

17：00　ただいま～

申し送り・記録
他事業所との連絡など

17：30　お疲れ様でした～

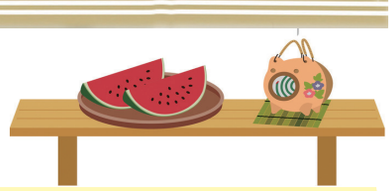
また　明日

夜間当番さん
よろしくお願いします

最近の亜熱帯化した天候の中、
　暴風にも負けず、 ゲリラ豪雨にも負けず、
　射てつく太陽を浴びての訪問、 溶けてしまいそう・・・
色鮮やかな百日紅やひまわりに季節の移り変わりを感じ、
　夕焼けに心癒されて、 建物の中の仕事では味わえない醍醐味を感じています。

そんな季節の香りを少しでも利用者さんにお届けできたらと思いながら
軽やかにペダルをこいでいる毎日です。

『こんにちは～　訪問看護でーす。』



どんなことでもご相談ください

訪問看護を必要とされる場合、訪問看護ステーション：所長　横山恭子　　またはソーシャルワーカーまで
お気軽にお電話（047-773-0319）ください。

リハビリ事業（介護予防）

介護予防を図る目的で
市内に住む 65 歳以上の身体機能の低下した方を対象に、
実施している事業が「リハビリ事業」です。

「リハビリ事業」では、リハビリ教室、パワーリハビリフォローアップ、プールリハビリをしています。

効果を実感してもらうために　体力測定の結果用紙を新しくしました

リハビリ事業では利用者全ての方を対象に体力測定を行なっています。これまでは体力測定をして数値のみが記載された用紙をお渡ししていましたが、より皆様に伝わりやすくなるように今年度よりグラフを加えた用紙をお渡しし始めました。
自分自身の弱点や強みを把握しながら運動をしていただき、２回目以降は結果の変化や運動の効果を実感してもらえればと思います。

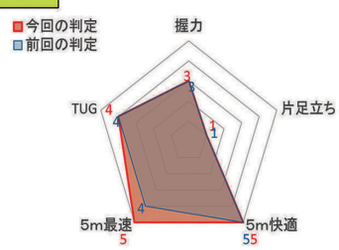
（文：鳥居 和雄 PT）

船橋　花子　様
体力テスト～結果～

測定日：2017/6/13
前回測定日：
2017/4/4

	握力	片足立ち	５m快適	５m最速	TUG
今回の判定	3	1	5	5	4
今回の測定値	28	0.6	3.4	2.8	8.7
前回の判定	3	1	5	4	4
前回の測定値	27	0.7	3.4	3.1	8.8

判定結果



参考・引用：厚生労働省・運動器の機能向上マニュアルより

握力	全身の筋力の代表値として握る力を測定します　※強い方の手を測定				
	1	2	3	4	5
男性	20.9kg以下	21.0～25.3kg	25.4～29.2kg	29.3～33.0kg	33.1kg以上
女性	14.9kg以下	15.0～17.6kg	17.7～19.9kg	20.0～22.4kg	22.5kg以上

片足立ち	片足でどれだけ長く立っていられるかバランスをみます　※良い方を採用				
	1	2	3	4	5
男性	2.6秒以下	2.7～4.7秒	4.8～9.5秒	9.6～23.7秒	23.8秒以上
女性	3.0秒以下	3.1～5.5秒	5.6～10.0秒	10.1～24.9秒	25.0秒以上

5m歩行（快適）	５mの歩行路を普段通りの速度で歩いたときのタイムを測定します				
	1	2	3	4	5
男性	7.2秒以上	5.7～7.1秒	4.8～5.6秒	4.2～4.7秒	4.1秒以下
女性	6.9秒以上	5.4～6.8秒	4.8～5.3秒	4.1～4.7秒	4.0秒以下

5m歩行（最速）	５mの歩行路を出来る限り速く歩いてもらった際のタイムを測定します				
	1	2	3	4	5
男性	5.4秒以上	4.4～5.3秒	3.7～4.3秒	3.1～3.6秒	3.0秒以下
女性	5.5秒以上	4.4～5.4秒	3.8～4.3秒	3.2～3.7秒	3.1秒以下

TUG	椅子から３m先の目印を回って戻ってくるまでのタイムを測定します				
	1	2	3	4	5
男性	13.0秒以上	11.0～12.9秒	9.1～10.9秒	7.5～9.0秒	7.4秒以下
女性	12.8秒以上	10.2～12.7秒	9.0～10.1秒	7.6～8.9秒	7.5秒以下

1. 劣っている　2. やや劣っている　3. 普通　4. やや優れている　5. 優れている

＜利用の手続き＞　船橋市リハビリセンター　電話番号　047-468-2001　へお問い合わせください。

介護職員向け勉強会　（認知症）平成 29 年 5 月 31 日 (水)　船橋市立リハビリテーション病院

今年度初めての第 55 回介護職員向け勉強会は、新企画「認知症について　～心理の理解と対応方法～」として、認知症のある方に対する理解を深め、対応方法について、ユマニチュードの考え方を通して、**①見る、②話す、③触れる、④立つ**という項目について学びました。

講義と実技指導は船橋市立リハビリテーション病院のケアワーカー部門チーフの磯部香奈子さんに担当していただきました。
参加者からは、「一つ一つわかりやすく説明するだけではなく、実技を通して行なうことがわかりやすく良かったなと思います。」「実技があってとてもわかりやすかった。根本を学べたような気がする。」「“触れ方の違い”ってすごいな…と実技で感じることができました。」「今日勉強したことは、認知症の方だけでなく全てのケアに活かせる。明日からケアに活かします。」といった声をいただきました。　（文：江尻 和貴　副センター長）

①見る
誰でもパーソナルスペースが存在する。
体がのけぞるなどの仕草を見逃さないこと。
① -2 相手の視線に合わせることが大事。

②話す
ケア提供時、何をされるか分からないと不安になるので、行為そのものを「ことば」にする事が大事。隣で話を聞いているところ。「カーテン越しにでも何のケアをしているかが分かるような声かけが理想とされています。」

③触れる
認知症の方にとって「ハッ」と驚きを与えることが症状を増強させてしまうと言われています。その為にも鈍感な場所から徐々に敏感なところへ、上から掴むのではなく下から支えるとよいです。

④立つ
掴まない介助を意識する。親指を使用しないでも支えられる。身体を動かすときは５才の子供でもできる力＝身体の動きをうまく誘導するとよいです。

地域リハビリ拠点事業

「地域リハビリテーション拠点事業」では、
関係機関と協力し様々な活動を行っています。

～活動報告～

地区勉強会（北部）　平成 29 年 5 月 25 日 (木)　二和公民館

今年度第 1 回目となる本勉強会は、42 施設から 119 名の参加者のもと開催されました。
勉強会は**「その人らしい生活を送るために～自宅と施設の境界線を考える～」**がテーマで、
司会進行は二和病院の高木秀明さんによりすすめられました。

高木　秀明　氏

平尾　悟　氏

グループワークに入る前に、「施設ではどのようなことができるのかそして　何をしているのか」のミニレクチャーがありました。
「特別養護老人ホームの特徴・過ごし方」を、船橋笑寿苑の平尾悟さんから、「デイサービスの特徴・過ごし方」は、船橋市デイサービス連絡会の北原淳力（あつお）さんから、スライドを用いて、わかりやすく紹介していただきました。
その後、事例紹介を船橋市立リハビリテーション病院の梅原啓子さんにしていただき、退院時カンファレンスを想定して、自宅と施設のそれぞれで支援する際の留意点について多職種で話し合いをおこない、各グループでの結果を発表して終了となりました。

北原　淳力　氏

石川　誠　氏

地域リハ推進委員会リーダーの石川さんの最後のまとめでは、「グループワークに参加された半数は初めての人ですので、この会を継続して開催して　多職種連携の実をあげてゆきたい」との結びの言葉がありました。

(文：鳥居 和雄 PT)

地区勉強会（中東部）　平成 29 年 7 月 19 日 (水)　船橋市立リハビリテーション病院

加辺　憲人　氏

今年度 2 回目の地区勉強会は、 135 名の参加者のもと開催されました。テーマは**「独居で病前情報がわからない方の退院時支援を考える」**で、司会進行は船橋市立リハビリテーション病院の加辺憲人さんによりすすめられました。ミニレクチャーは、千葉徳州会病院の長田洋子さんにより「褥瘡について」の講義がありました。講義では、褥瘡の発生機序とその予防法、ポジショニングのポイント、実例紹介があり、明日からの褥瘡対策にすぐに役立つ内容でした。

長田　洋子　氏

その後、グループワークの事例検討では、「腰痛や視力障害から外出・歩行が困難となり入院時点で原因不明の褥瘡を認めた 75 歳男性」の事例紹介を「かえりえ新高根」の大城睦子さんにしていただき、退院時カンファレンスを想定したグループでの活発な意見交換がなされました。

事例検討で用いた分析図

	個人	環境
強み		
弱み		

大城　睦子　氏

今回は症例について、「個人の強み･弱み」「環境の強み･弱み」にわけて、課題抽出を行い、それに対する対策を検討する形を取りました。各グループの報告では、目標と対策が同じ方向を向いた結果が出たことは、この検討方法が有用であることを示しているのではないかと思っています。
最後のまとめで、ひまわりネットワークの副代表である杉田　勝さんからは「この地区勉強会は多職種で話し合える貴重な場であり、今回は充実した事例検討が出来ました。この地区勉強会がさらに大規模に発展してゆくことを期待しています。」との話がありました。

杉田　勝　氏

(文：鳥居 和雄 PT)

地域リハビリ拠点事業のホームページは船橋市リハビリセンター HP 内にあります。
この URL で直接アクセスできます。
活動状況の閲覧、勉強会の申込書などが格納されていますので、ブックマーク登録してご活用ください。

地域リハビリ拠点事業
ホームページ QR

委員会より

サービス向上委員会

私たちの取り組み　「接遇と私」

輝生会では「よりよい接遇をめざして」を合い言葉にして、日々の業務に取り組んでいます。当センターでは、毎朝ミーティングをしておりますが、特に月に２回スタッフの接遇への取り組みを話してもらうことにしています。その内容は「足跡」ファイルにまとめています。

今回は「足跡」に掲載されたクリニック看護師の野口悦子さんが話された内容「私にとっての接遇」を紹介します。

私にとって接遇は、努力を必要とする業務のひとつです。なぜなら、黙っていると怒っているのかと問われる顔貌とサバサバした性格などから、冷たい印象を与えてしまうからです。実際、新人指導を行っていた時、新人スタッフに嫌な思いをさせてしまったことがあり、見た目と、相手への印象を少しでも良いものにするべく、努力を重ねてきました。優しげな印象を与えるメイク術を意識し、身につける洋服の色から印象を変えるカラーセラピー、挨拶や、会話時には口角を上げ、目つきを優しげにするよう心がけるようにするなどなど。しかし、体調不良時などはどうしても、他者への配慮まで気を回す余裕がなくなり、スタッフへはおざなりになってしまうこともありますので、常に体調には気をつけ、少しでもベストな健康状態（身体と心の）を保ち、自分にゆとりを持てるよう心がけています。

仕事前にラジオ体操をしています。

当センターでは、朝のミーティング前に、ラジオ体操の音楽が流れます。
４月からはじまったイベントですが、スタッフは三々五々集まり、音楽に合わせ、身体を動かしています。
身体を動かした後は、爽快な気持ちで仕事ができます　!!。

イチ　ニー　サン　シー　ゴー　ロク　シチ　ハチ

これからもよろしくお願いします。

【質問】①船橋市リハビリセンターの魅力を教えてください。
②専門職として心がけていることを教えてください。
③今後の抱負を教えてください

（宍倉　美樹子 OT）

①開設４年目と新しいセンターであること。外来・通所・訪問リハビリ、訪問看護、地域リハ事業と多様な所。
②生活期では自分の職種の専門性を見失いそうになるので、作業療法士であることを忘れないように気をつけています。
③地域の特色をもっと知り、アプローチに役立てたいと思います。

（泉水　泰良　PT）

①地域密着型のリハビリが提供できているところです。
②利用者さんの体調や身体の変化に一はやく気づけるよう姿勢や歩行の様子を注意深く診るように心がけています。
③たくさんの利用者さんが交流できるような企画を考えていきたいと思っています。

（土岐　美枝子 OT）

①小人数でアットホームな所が魅力です。病院は同職種との関わりは多いですが、ここでは、他職種との隔たりもなく気軽に話しができます。
②地域リハ拠点事業としての勉強会・交流会に参加し、地域のかたがたとの交流を心がけています。
③中堅どころとしてセンターの魅力を引き出せる雰囲気作りに頑張ります。

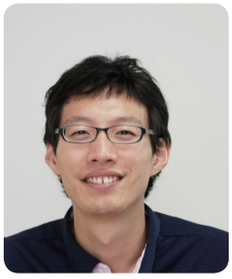
（熊谷　麻美　CS）

①リハビリ・訪問看護も含め、利用者さんに適したサービスが提供できている所。アットホームな雰囲気が魅力。
②受付としてわかりやすい説明と迅速かつ丁寧な対応を心がけています。明るい笑顔で皆様をお待ちしています。
③地域密着型のリハビリセンターでありつづけるように、スタッフの一員として尽力していきます。

スタッフ紹介

新入スタッフ、異動スタッフに質問
【質問】①船橋市リハビリセンターの魅力を教えてください。
②専門職として心がけていることを教えてください。
③今後の抱負を教えてください

新しく仲間になったスタッフです。


（佐々木　智也　OT）

①外来・通所・訪問と３つの分野のリハビリがあり、利用者さんの多様な状況に応じた支援ができるところ。
②利用者さんの望む生活像を把握すること、それを実現するために何が必要かをいつも考えるようにしています。
③利用者さんの人生に影響を与えているという気概をもって、よりよい支援方法を考えてゆきたいと思っています。

（藤田　瑞子　NS）

①上司もスタッフ同士も距離が短く、アットホームだと感じています。
②その人・家族に必要なこと、望んでいることを理解すること。長い人生を歩んできた人生の先輩を人として尊敬する気持ちを大切にしています。
③訪問看護の中で、「また来てください」と言ってもらえるように、安心感を提供できるよう頑張ります。

（吉津　俊樹　PT）

①チームアプローチは当法人の柱ですが、ここでは職種を問わずスタッフ間の距離がすごく近くに感じられます。
②利用者さんの「障害」ばかりに気をとられず、「人」として寄り添ってゆくことを心がけています。
③回復期を退院した患者さんの生活を見ることに不安がありますが、とてもワクワクしています。頑張ります。

（樺沢　美穂　NS）

①患者さんの必要とする外来・通所・訪問リハに応ずる体制があること、多くのスタッフがいることなど、リハビリするのに恵まれた環境だと思います。
②誰に対しても壁を作らず曇りのない目で物を見るように心がけています。
③今までの居宅介護事業所での経験をこれからの訪問看護で活かしていきたいと思っています。

（井上　沙理奈　PT）

①利用者さんと距離が近く、雰囲気が明るい所。
②患者さん・利用者さんの声に耳を傾けること。その声によりそった目標共有と達成ができるように支援してゆくことを心がけています。
③新しい環境ですが、少しでも早く慣れて、明るく元気に、日々成長できるよう頑張ります。

（伊藤　明子　ST）

①アットホームなところ。また、一人一人の患者さん・利用者さんに対して、様々な専門職がかかわることができるところ。
②言語聴覚士として、誰にもわかりやすく話ができるように心がけています。
③芝山育ちですので、訪問リハビリで利用者さんの自宅へうかがう際には、裏道を開拓していきたいです。

御苦労さまでした。

（長井　麻美　CS）

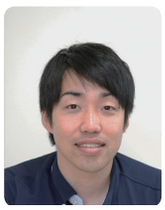
（落合　翔平　PT）

（寺下　和子　NS）

（壱谷　美帆　CS）

①利用者さん・患者さん一人一人に丁寧に接しているところ。思いやりのある職場だと感じています。
②一つ一つの作業をミスのないように注意して行うこと。受付では、笑顔を心がけています。
③サポート部の一員としての知識を身につけてゆけるように努力してゆきたいです。

（高木　郁実　NS）


（小沢　駿輔　OT）

新しくメンバーになったスタッフにはこれから頑張ってほしいと思います。
そして、今までセンター活動に尽力してきていただいたスタッフには心より感謝しています。
長井さんは、センター開設以来、サポート部で活躍され、またスタッフのムードメーカーとしてもセンターの雰囲気作りに貢献してくれていました。この度本部への移動になりました。
訪問看護部門では、寺下さんと高木さんが家庭の事情などのため、退職となりました。
クリニック部門では、落合さんは理学療法士として２年半勤務していました。丁寧な指導は患者さんから篤い信頼を得ていました。これからは、船橋市立リハビリテーション病院に戻り回復期病棟での活躍を期待しています。小沢さんは、この１年間、言語聴覚士として木曜日一日応援にきてくれていました。伊藤さんが常勤として配属されましたので、今後はリハビリ病院での勤務に専念することになりました。　皆さんありがとうございました。　（センター長より）

地域の施設紹介

いとう内科循環器科クリニック を訪ねて

〒 274-0822 千葉県船橋市二宮 1-5-4
TEL. & FAX. 047-465-2000
http://itoclinic.life.coocan.jp/index.htm

伊藤　清治　院長

いとう内科循環器科クリニックは、リハビリセンターからバス通りに出て、北側へ少し行ったところにあります。リハビリセンターからは 500m の距離でとても近くにあります。院長である伊藤清治 (いとうしんじ) 先生は慶應大学医学部を卒業され、大学や近県の病院で循環器疾患・内科一般の研鑽をつまれ、平成 17 年 9 月に内科と循環器のクリニックを開院されました。今年で 12 年の歴史があります。標榜は内科・循環器科ですが、予防医療にも力を入れています。循環器科は専門で得意分野とされており、患者さんは高血圧や心臓に不安のある方が多くいらっしゃっています。明るい雰囲気の建物の中には、アート作品が飾られており、患者さんの心を和ませてくれています。

メッセージ

当院には、病後リハビリテーションを必要とする方、また病気の発症を防ぐために運動を必要とする方が多くいらっしゃいます。『住み慣れた所で、そこに住む人々と共に』というセンターの理念は多くの患者さんの願いを形にしたものであり、協調して地域医療へ貢献し ていきたいと思います。

いとう内科循環器科クリニック　玄関

利用者さんの声から

通所リハビリを利用している妻を看ながら

渡邉　宗一　さん

私がこのような文章を書くきっかけは、センターで行っていた「歩こう会」に家族の一員として、参加させていただいたことではと思っています。現在、通所リハビリを利用している妻は、平成 26 年 6 月 8 日の夜、お風呂に入っていて突然倒れ、意識不明となり、救急車で船橋市立医療センターに運ばれました。医療センターではくも膜下出血のため緊急手術を受け、１ヶ月間お世話になり、その後、船橋市立リハビリテーション病院に入院し、10 月初めまでの約３ヶ月間、回復期リハビリテーションを行い、順調に回復し自宅退院となりました。退院後は、身体の右半身を普通に動かすことができずに、船橋市リハビリセンターへ週 1 回の通所リハビリでお世話になっています。家族としましては、少しづつ元気になっている姿を見ることは本当にうれしい限りです。

平成 28 年 10 月から 12 月までの 3 ヶ月の間、通常のリハビリのほかに毎週火曜日の午後に「歩こう会」という取り組みが始まるとのことで誘っていただきました。

私は妻が皆さんの足手まといになるのではないかと心配で、時間のゆるす限り参加させていただきました。「歩こう会」ではリハビリセンターの近くの名所などを巡り、坂道や階段を登ったり降りたりして、歩く力をつけることが目指されました。みんなで歩いている中で、センターのスタッフの方が、必ず患者さんを診ていて下さり、患者さんが迷っていると笑顔で話しかけて下さり、患者さんも笑顔で受け答えをしていました。

「第２回　歩こう会」
薬園台公園にて

妻は階段になると、足が出ず立ち止まることが多く、スタッフの励ましや手助けをしてもらっていました。妻は歩くことに自信がなく、長い距離を歩いたことがなかったのですが、「歩こう会」でみんなと長い距離を歩くことができ楽しかったと話していました。

スタッフの皆様の心遣いに感謝しております。これからもお世話をかけますが、よろしくお願いいたします。

センタースタッフ数	（H29. 7）
医師	２名（火、木）
看護師	５名
理学療法士	１１名
健康運動療法士	２名
作業療法士	６名
言語聴覚士	２名
介護福祉士	３名
ソーシャルワーカー	２名
サポート部	１３名
計	４６名

アガパンサス
が咲いていました。

【編集後記] 梅雨あけとともに、暑い夏到来です。昔は麦わら帽子をかぶり、野原を自由に走り回り、川で水遊びをしたものです。実家に帰るとカブトムシをとった里山や水遊びをした川も姿を変えていて、時の流れを痛感します。今の子供たちは夏休みに入り、何をたのしんでいるのでしょうか。一方、団塊の世代も 65 才を越えて、第二の人生を悠々自適に過ごせているのでしょうか。親の介護に時間を割いている人も多いのではと推察しています。充実した生活が続けられるように努めてゆきたいところです。(石原茂樹)